

福 井 県 医 師 会

だより

第671号 平成29年(2017)5月



降魔成道図 ダンブル・ビハーラ（黄金の寺院遺跡）

福井市 吉村 信

表紙写真説明：降魔成道図 ダンブル・ビハーラ（黄金の寺院遺跡） 福井市 吉村 信

上座佛教国スリランカで最も有名な世界遺産、ダンブル・ビハーラ第2窟の天井壁画である。悪魔・不信心者、動物の姿をした悪鬼などが、毒蛇コブラを振り回したり岩を投げ付けようとしたりして、釈迦の悟りを阻げようとする様子が、闊達な筆致でユーモラスに描かれている。紀元前1世紀から描き続けられた、ライトに照らされて無限のエネルギーを感じさせる極彩色の大画面が黄金色に輝きながら天井から覆い被さってくる様は、表現の仕様のない迫力と荘厳さに満ち溢れている。

醫 縫 録

福井大学医学部整形外科教授に就任して

福井大学学術研究院医学系部門医学領域

器官制御医学講座整形外科学分野教授 松 峯 昭 彦



この度2016年12月1日付けで、福井大学整形外科教授の職を拝命いたしました松峯昭彦と申します。私は、福井医科大学に一期生として入学しそして卒業しましたが、卒業後30年間を大阪と三重県で過ごしていたため、福井県の先生方にとりましては、全くの新参者です。そこで、簡単な自己紹介とこれまでの教室の歴史の紹介、そして今後の抱負についてお話ししたいと思います。

私は1960年4月に大阪の東住吉区の典型的な下町に生まれました。大阪府立天王寺高等学校を卒業した後、福井医科大学に一期生として入学しました。大学入学当時は、広大な土地に小さな講義棟とテニスコートしかなく、構内にはキジが走り回っているような環境で大学生活をスタートしました。学生時代は、剣道部とコーラス部（Vocal Society）を創設し、前者の副キャプテンを、後者の部長をやっていました。大学祭（暁祭）を皆で企画して開催したことも素晴らしい思い出となっています。6年間の在学中、研究棟、管理棟、病院の建築が急ピッチで進み、私が卒業の頃には田んぼの中に不自然なほど大きな建物がそびえ立つ状況となりました。現在では、更に新病棟も完成し、学生時代からは想像もつかないほどの充実した姿になっています。

卒業後は、出身地である大阪に戻り、大阪大学整形外科教室に入局し、15年間で8カ所の病院で研修勤務しました。卒業後5年目の大阪大学附属病院での研修中、巨大な骨肉腫の患者さんを目の当たりにし大きなショックを受けたことから、“骨・軟部腫瘍”を自分の専門領域にすることに決めました。卒業後15年を経たころ、三重大学に転勤することになりました。大阪大学の腫瘍班のボスが三重大へ教授として転出され、「三重で骨・軟部腫瘍の勉強をやらないか？」と声がかかったことが理由です。三重大学では、多くの症例を経験すると共に、磁性体温熱療法や放射線処理骨移植、術中放射線照射など多くの臨床研究を行うことが出来ました。そして、様々な偶然が重な

り、この度2016年12月1日付けで、福井大学整形外科教授の職を拝命した次第です。

福井大学整形外科教室は1981年4月に開設され、初代：井村慎一教授（1981-1998）、第2代：馬場久敏教授（1998-2015）、第3代：内田研造教授（2015）と受け継がれてきた輝かしい業績にあふれた教室です。井村慎一初代教授は股関節手術を専門とされ、我が国の人工股関節手術の勃興期に、オリジナリティにとんだ数多くの業績を残されました。特に日本人の大腿骨形状にフィットしたFMS（人工股関節）は、現在ではAnatomic fitとして京セラメディカルから上市されており、現在でも我が国で広く使用されています。第2代：馬場久敏教授、第3代：内田研造教授は共に、脊椎外科を専門とされ、脊髄運動ニューロンの細胞生物学と神経再生に関する研究では、世界のトップランナーとして多くの業績を挙げられました。また、我が国で唯一無比といえる整形外科領域でのアフリカへの医療支援は、特筆すべきことだと思われれます。

私は、福井大学の卒業生とはいえ、実際に医師として福井で仕事をするのは初めてです。皆様のご指導、ご協力・ご支援を得ながら少しずつ足下を固めたいと考えています。福井大学整形外科教室は、私を含めても12～13人の小さな教室ですが、歴代の先生方のご努力と、ご指導が隅々にまで行き渡っており、真面目で優秀な人材がそろっています。これまでの諸先輩方の努力と苦勞を無駄にしないよう臨床・研究・教育にしっかりと取り組みたいと考えています。また、福井県のすべての医療機関と連携・協力しながら、地域医療にも大きく貢献したいと考えていますので、何卒ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。